

飼育展示動物種の分類の考え方

	A	B	C
<p>保全</p> <p>※現在の生息状況や生息地の状況を踏まえた将来的な予測に基づく絶滅が危惧される度合い、国内外における保全の取り組み状況の観点などから判断しランク分けします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海外希少種のうち、円山動物園が積極的に取り組む必要があると考えられる種 ・国内希少種のうち、円山動物園が積極的に取り組む必要があると考えられる種 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外希少種及び国内希少種のうち、国内個体数が安定していて、現時点で円山動物園が積極的に取り組む必要はないと考えられる種 ・海外普通種・国内普通種のうち、国内個体群が不安定で円山動物園が積極的に繁殖に取り組むべき種 ・道内固有の普通種（亜種含む） ・国内普通種のうち、北海道レッドリストまたは環境省レッドリストで準絶滅危惧以上の種 ・特殊な家畜種（北海道ならではの家畜等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外普通種 ・国内普通種 ・普通の家畜種
<p>教育</p> <p>※環境教育や生物学などの科学教育の観点、人と動物の関わりを学ぶ上での観点、情操教育の観点などから判断しランク分けします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道内生息種 ・国内希少種 ・海外希少種 ・その他上記と関連した解説に有用な種 ・道内外来種等、特別な教育活動が可能な種 ・ふれあいや体験プログラムに有用であり、他に代えがたい種 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内普通種 ・海外普通種 ・ふれあいや体験プログラムに有用である種 	/
<p>福祉</p> <p>※飼育面積・体制の確保などにより、動物福祉の充実・向上に取り組むことができるかどうかを判断しランク分けします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主にハード面において、現状でも十分福祉レベルを満たしている種 	<ul style="list-style-type: none"> ・主にハード面において、若干の規模拡大で十分な福祉レベルを確保できる種 ・他種との混合飼育などにより、広いスペースを共有可能な種 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉レベルを向上するには大幅な施設改修が必要な種 ・他種との混合飼育が不可能であり、より優先されるべき種とのスペース競合が起こる種
<p>継続性</p> <p>※継続的な飼育を維持するために、寿命などを考慮し、将来的にも適正な飼育頭数、遺伝子の多様性を維持することができるかどうかを判断しランク分けします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「寿命」「繁殖可能期間」「血統」「国内外からの導入可能性」等を考慮して飼育の継続性が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・「寿命」「繁殖可能期間」「血統」「国内外からの導入可能性」等を考慮して飼育の継続性が中程度である 	<ul style="list-style-type: none"> 「寿命」「繁殖可能期間」「血統」「国内外からの導入可能性」等を考慮して飼育の継続性が低い

用語説明 （ここではこのように定義いたします）

海外希少種：IUCNレッドリストのカテゴリで絶滅危惧Ⅱ類以上の種

海外普通種：IUCNレッドリストのカテゴリで準絶滅危惧以下の種

国内希少種：種保存法での国内希少野生動植物種、または環境省レッドリストにおいて絶滅危惧Ⅱ類以上の種

国内普通種：国内希少種以外の国内に生息する種